



マイクロバスで行く、恒例の
春の戦跡めぐり

あつみ半島(田原市)戦跡見学会

雨天決行です

3月31日(日)8時30分発

今年も「保存する会」恒例の春の見学会を計画しました。参加を希望される方またはご質問

下記の連絡先まで定員25名になり
次第締め切ります。3月25日締切

出発 8:30

瀬戸市駅西口前

当日の駐車場は確保できかねますので、公共交通機関をご利用願います。(愛知環状鉄道「瀬戸市」、名鉄瀬戸線「新瀬戸」)

日程

道路・経過時間の状況により変わります、渋滞が心配されるので、全員集合しだいで発車します。

- ①瀬戸市駅西口前 8時30分発
- ②伊良湖岬灯台～恋路ヶ浜
- ③柳田国男 逗留記念碑
- ④海軍防備所(米軍上陸阻止 機雷封鎖事務所)跡
- ⑤伊良湖岬村集落移転百周年(柳田国男)の碑
- ⑥伊良湖射場・六階建て
- ⑦和地一色(米軍上陸阻止陣地)
- ⑧瀬戸市駅前

18時00頃着予定

※当日の交通状況によりコース順、到着時刻は変わります。昼食はコース途中のコンビニで購入していただきます。

参加費 **3000円**

交通費、保険代込み 昼食代別
当日は有料道路等も利用します。



渥美半島の
戦争遺跡



身近な歴史

あの局地戦闘機「紫電改」を
瀬戸でもつくりようとしていた!

調べてみよう!

日時

4月13日 土 13時30分～16時30分

会場 瀬戸市文化センター12会議室

名鉄尾張瀬戸から徒歩約10分・無料駐車場あり

定員 24名 *事前予約制

(下記の連絡先まで)

参加費 5000円



瀬戸地下
軍需工場
跡を保存
する会

会報

NO.180

2024年
3月1日

瀬戸市岩崎町64-1

瀬戸市職労組 事務所

0561-84-4760

fax 84-4767

郵便振替口座番号

00820-9-105120

連絡先

事務局

梅野

090-3837-7050

寺脇

0572-23-5899

fax 同上

携帯

090-6575-4370

Eメール

tera-m@ob.aitai.ne.jp



詳しくは
次ページを参照
してください!

2024年度 会費およびカンパを頂いた方	瀬戸市	春日井市	名古屋市	多治見市	2024年2月24日現在 139名 (+0-4)
井上喜弘さん	大里 豊さん	松本八重子さん	高木知文さん		
1000円	1000円	3000円	3000円		
	大矢昭夫さん				
	5000円				

ありがとうございます
ございました!



マイクロバスで行く、恒例の 春の戦跡めぐり 2024



あつみ半島(田原市)戦跡見学会 3月31日(日)8時30分発

雨天決行です

出発 8:30
愛知環状鉄道
瀬戸市駅
西口前

当日の駐車場は確保
できかねますので、
公共交通機関をご利用
願います。



今年も「保存する会」恒例の春の見学会を計画しました。
参加を希望される方またはご質問は、下記の連絡先まで
定員25名になり次第締め切ります。 3月25日締切

日程

道路・経過時間の状況により変わります。

道路・経過時間の状況により変わります、
渋滞が心配されるので、全員集合
しだい発車します。

- ①瀬戸市駅西口前 8時30分発
 - ②伊良湖岬灯台～恋路ヶ浜
 - ③柳田國男 逗留記念碑
 - ④海軍防備衛所
(米軍上陸阻止 機雷封鎖事務所)跡
 - ⑤伊良湖岬村集落移転百周年 (柳田国男)
の碑
 - ⑥伊良湖射場・六階建て
 - ⑦和地一色(米軍上陸阻止陣地)
 - ⑧瀬戸市駅前 18時00頃着予定
- ※当日の交通状況によりコース順、到着時刻は変わります。昼食はコース途中のコンビニで購入していただきます。

参加費 **3000円**

交通費、保険代込み 昼食代別
当日はマイクロバスで有料道路等も利用
します。定員 25 名になり次第締め切ります。



伊良湖射場・六階建て「気象
塔兼展望塔」(上)と
無線電信所(下)



伊良湖岬灯台(上)と
柳田國男 逗留記念碑 (下)



海軍防備衛所跡(上)と
米軍上陸阻止陣地跡(下)



伊良湖集落移転記念碑(新碑:写真左前、旧碑:写真右)
平成17年(2005)、伊良湖村の移転100周年を記念した碑が、伊良湖自治会により建てられました(写真左前)。



瀬戸地下軍需工場跡を保存する会

申込 寺脇 0572-23-5899 または 090-6575-4370

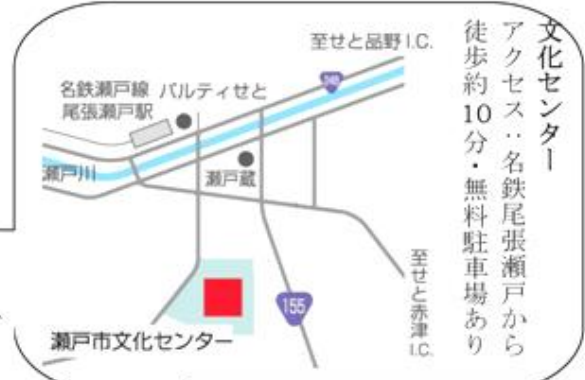
Eメール tera-m@ob.aitai.ne.jp

ホームページ 「瀬戸地下」で検索



「愛知航空機と紫電改」

講師：愛航研究会 本田 基、木村美穂
 日時：令和6年4月13日・土曜日、13時半～16時半
 募集人員：24名 *事前予約制(下記の連絡先まで)
 参加料：500円 会場：瀬戸市文化センター
 12会議室



文化センター
 アクセス…名鉄尾張瀬戸から
 徒歩約10分・無料駐車場あり

紫電改製造計画抜粋

知 愛	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
方 船 機 英	瀬 戸	英 機 分 散	近 郊 分 散	本 地 ク 原	三 國	伊 保 飛 行 場	伊 保 飛 行 場	伊 保 飛 行 場	伊 保 飛 行 場	伊 保 飛 行 場	伊 保 飛 行 場	伊 保 飛 行 場
試 作	試 作	試 作	試 作	試 作	試 作	試 作	試 作	試 作	試 作	試 作	試 作	試 作
協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場
協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場	協 力 工 場

紫電改図面



内容
 ・「強風」から「紫電改」の流れ
 ・川西以外の他廠社(愛知、三菱、昭和、十一工廠、二十一工廠)での生産計画
 ・瀬戸工場(『紫電改』最終組み立て(200地区)まで行い、本地ヶ原で飛ばす計画)などなど



米軍資料に見られる200地区



本地ヶ原飛行場

あの局地戦闘機「紫電改」を瀬戸でもつくりようとしていた!

瀬戸地下軍需工場跡を保存する会



<http://ob.aitai.ne.jp/~tera-m/index.htm>

自宅 0572-23-5899

携帯 090-6575-4370

e-mail: tera-m@ob.aitai.ne.jp

申し込み・連絡は

寺脇

盛況だった現地見学会1月27日(土)

一過去最大30名の参加！一

1月27日(土)恒例の地下工場跡現地見学会を行いました。参加者は寒風の中でも30名にもおよび大変盛況でした。学習会では工場跡地だけでなく他の「瀬戸の戦跡」について紹介しました。今回はこれまでとはちがいで午後に行つたのが良かったと思います。各務原や江南と言つた遠地からの参加もあり、いろんな情報をいただき大変、有意義な会になりました。(寺脇)



上図 水野地域交流センターで学習会

下図 第1区第7坑で



上図 第2区第10坑で

下図 第2区尾根沿いの陥没穴を調査する参加者

参加者の感想(メール)

戦争遺跡をテーマに写真記録を続けています。戦後生まれの私にとって、銃後の日本の姿を想像することはとても難しいことです。

「保存する会」の学習会&見学会には初めて参加しました。瀬戸の地で三十年以上も前に発足した古参の会であることに驚くとともに、地下工場跡の他にも多くの戦跡があることを学びました。地道な調査の積み重ねは、地域への視点を大きく変えます。私が住んでいた奈良県では、古代ばかりが重視され、近現代史に目を向ける研究者はごく稀です。これでは忌まわしい戦争の時代は「なかった」ことになりかねません。

地下工場跡の見学では落ち葉で足元が滑る中、今は鉄冊で閉ざされた地下壕を見て回りました。進駐軍撮影の写真パネルを掲げながらの解説は、想像力をよりリアルにひき立てるものでした。本土決戦に備え突貫工事で始まった地下工場。実際に稼働していた事例は珍しく、更なる調査と保存の呼びかけをしていきたいものです。

江南市在住

西田 敦

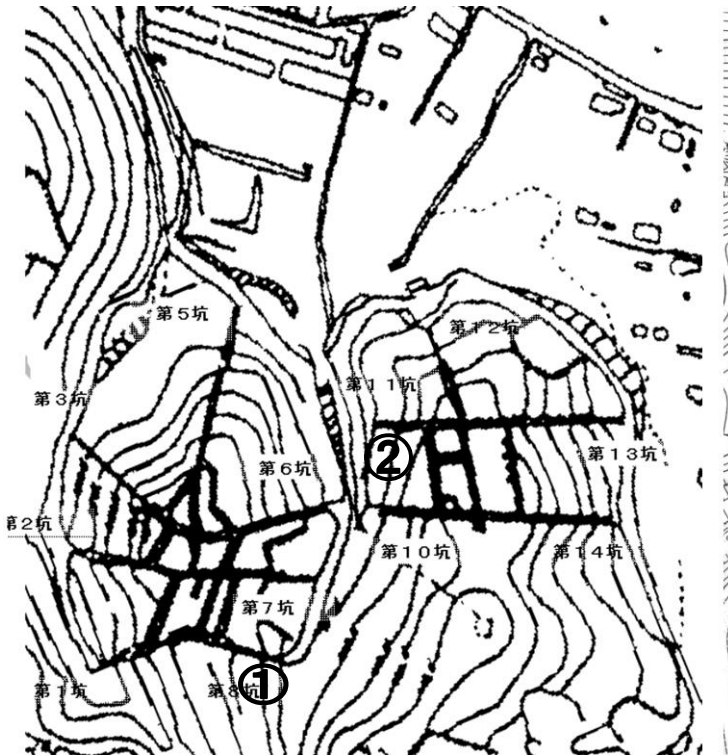


ごくろうさまでした！



地下工場跡地の

コンクリート遺構はやはり「トイレ」だった！



①2000年9月発見（第1区第8坑跡附近）



②2010年10月23日「散歩道」整備のための事前調査で新しい遺構を発見しました。大きさは（0.85m×1.7m）で厚さ18cmほどのコンクリート製です。

屯鶴峯地下壕付近にもあった トイレ遺構



屯鶴峯地下壕とは？

奈良県と大阪府の境にある二上山のふもとにある凝灰岩層でできた屯鶴峯（どんづるぼう）に旧陸軍・航空総軍の戦闘司令所として、1945年6月ごろから建設が始められた。朝鮮人兵士を含む約300人が動員され、終戦の日の8月15日まで工事が進められたといわれます。東壕と西壕に分かれており、二つを合わせた全長は計約2キロ。高さ約3メートルのアーチ型トンネルが、はしご状に掘られている巨大地下壕です。

西田敦さんからのメールより

すでにご存じだと思いますが、奈良県香芝市の屯鶴峯地下壕付近で見つかったトイレ遺構（上図）と思われる写真を添付します。タイル、便器も付近から出土しました（右図）ので間違いのないと思うのですが。水槽とは違い、地面を掘り下げているので見つかりにくい遺構です。



6月9日愛知時計を襲った空襲②

堀口秋彦 記

愛知時計電機「ご出身で愛知時計にお詳しい堀口秋彦さんから、ご自身で調査記録された「20・6・9 熱田空襲の概要」令和5年5月記の手記を頂いたので連載で掲載します。勤務された会社の記録として、大変貴重な資料です。

堀口さんは、昭和9年生まれ、戦後に愛知時計電機に入社、瑞穂工場の設計部門で、時計機器や防衛庁関連機器を担当。愛知時計ならびに、そこで生産された過去の製品・遺構について「産業遺産」として調査記録されています。事務局 寺脇

20・6・9 熱田空襲の概要② 前号よりつづく

6, 証言A

愛知時計電機…砲煩(ほうこう)兵器部設計課員(20歳)は研究館3階の設計室で、社内放送のラジオが東海軍管区情報を伝えていた。警報解除のサイレンが鳴って、ラジオが「B29の編隊は琵琶湖附近より南西方面に向かい西進中、敵機は関西方面へ向かうと思われるので、東海軍管区は空襲警報解除」と放送した。

退避していた職員達従業員は鉄帽や防空頭巾を取り、汗を拭きながら机

に座った時だった！空襲警報のサイレンが鳴った。窓から西の空を見ると、B29の編隊の飛行爆音、3編隊21機の胴体下部の爆弾倉から黒い粒を落としているのが見えた。ゴーゴー！百雷が一時に落ちるようなもの。凄いい大音、ダダン、ダダンと爆発・炸裂音と同時に、もの凄い爆風！本能的に丸い50cmほどの建屋柱の東側に身をひそめ、頭をかかえ、耳をふさいで、目をつむった。ガラスなどの爆発破片は、柱のお陰で避けたが、次の瞬間、右斜め前方からの爆風。鉄筋コンクリート4階建の研究館へ、4000ポンド(1.8トン)の爆弾が、屋上から地下1階まで貫通して爆弾3発が命中！1.8トン3発の爆弾は地下室内で炸裂爆発して地下へ退避していた多くの人達は瞬時に、木端微塵に粉々となり飛び散った。全滅である。

研究館の床面は厚さ20cm、1階の床は50cmもあるコンクリート。屋上、4,3,2,1階の床を突き抜け、爆弾3発は地下室で炸裂した。3階設計室の爆弾落下穴(約6m径)から爆風が吹き上がって来た。設計課員は非常階段へ走り、外へ出るとまたもやゴーゴーゴー！と前にも増して大音響の爆発！とつさに鉄筋2階建の重要書類倉庫の中へ飛び込んだ。厚さ20cmの壁下に伏せた瞬間、ダダンと地響きと爆風で真暗になった。口と鼻が詰まる。両手で頭を押さえ息を止めた。1・2分経過しただろうか？夜が明けるように明るくなったので、倉庫を飛び出し、工場正門を駆け出ると、電車通りは電車の架線が垂れ下がり、色々な破片、トタン板、スレートなどと共に死者、怪我

人達が斃(たお)れ、足の踏み場もない散々たる有り様であった。

7, 証言B

学徒動員、愛知商業生徒(14歳)。防空壕へ避難。B29の大編隊、黒点が落下してくる。爆発炸裂音、大振動、恐怖、土煙り、爆撃の凄まじさ、凄惨な事態。工場は大被害で壊滅、爆撃穴は血の池。工場建屋の鉄骨は柱には肉片がこびりついている。死体の腐臭の強烈さ、感覚が麻痺する！汽車が鉄橋の上を走り抜けるときの様なゴォーの大音と爆風。白鳥橋へ1.8トンの爆弾穴、堀川の水が吹き上がり、貯木場の大きな丸太が頭上を横切る。夥しい(おびただ)死骸が堀川面に折り重なり、遺体が道路に転がっている。幾多の肉片が飛び散っている。地獄さながらの工場。

8, 証言C

学徒動員、中京高女生徒(17歳)。ドドドドド、大地震の勢い、防空壕は満員で、次の防空壕も満員で入れない。必死の形相で女工がちぎれた手首を、鮮血が流れる三角巾で持っている！次の瞬間、爆弾が落ち、防空壕は全滅し、辺りは足の踏み場もないほど、死体が転がっている！逃げる途中、前を走る男子中学生がバタツと倒れた。中学生の尻がえぐられている！肩から血を流している者、頭から出血の激しい人。バタバタと倒れていく人達！手足がちぎれ、胴体だけの死体。とても言葉に表せない。爆弾の破片が命中し、血まみれになりながら「おっかさーん」と大声を出して目の前で死んでゆく若

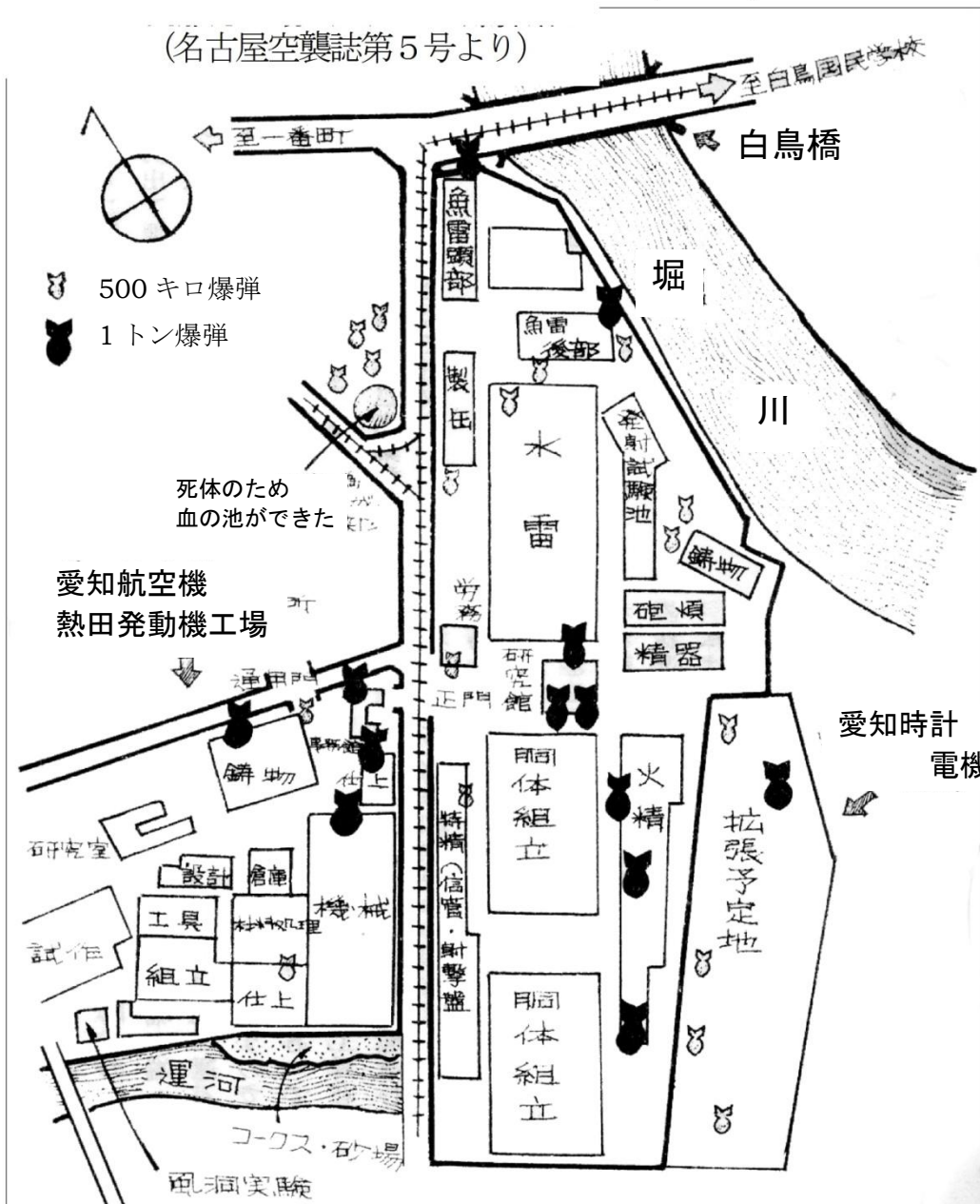
者。何とむごい地獄絵さながらの現場である。堀川は死体で埋まり、腐敗臭が鼻を突く。鳶口(とびくち)で死体を引き揚げ、男性達は重い死体を、大根やイモでも放り投げるように無造作に石炭箱に詰め込んでいた。工場正門横には、リング箱ほどの木箱に手足をへし折ってギューと押し込み一人分の木箱に木炭で名前を記入していた。性別・名前の分からない肉片は木箱に入れず、まとめて集められた。蛆(うじ)が白い塊となつてうごめいている。10日もたつと堀川に沈んだ死体は膨張して浮かんで来る。膨らんだ死体を見ても、かわいそうだとの思いも無かつた。

9、証言D

学徒動員、中京商業生徒(14歳)。発動機工場へ警報解除で復帰した時、再度の空襲警報のサイレン!西の空にB29の編隊が来る!上空にキラツと光つた物体が目に入る。素早く防空壕へ飛び込むと同時に、ガツーンと大音響、シヨック!工場は鉄骨柱がまがり赤い炎、黒煙が地を這い、物凄い爆発音と共に身体半分が土に埋まった。鉄材の下敷きになって死んでいる人、胴から下半身だけの死体、誰とも分らない腕や足、まさに此の世の地獄だ!船方電停付近は、あたり一面、死体の海!血まみれの目玉が飛び出た顔、余りにも酷い死体の山。爆風で着ていた服は剥ぎ取られ、眼球は無く、腹を裂かれ内臓がはみ出している女の死体、高圧線にぶら下がっている首!

次号へつづく

(名古屋空襲誌第5号より)



6月9日 愛知時計を襲った空襲の状況

写真で観る晴嵐 28号機修復の全貌 第13話

愛知航空機研究者・渡辺哲国

13. 浮舟（フロート）&脚柱（パイロン）

1) 浮舟治具及び生産機に関する打合せ要約

昭和18年11月18日、愛航永徳工場（本社）技術部第1会議室に於いて、高田アルミ（富山県）とのM6A1浮舟治具及び生産機に関する打合せが行われた。

1 南山生産機に対する治具支給の件

高田社計画の生産機用浮舟治具5基に対する支給条件を下記の如く決定す。

本治具は昭和19年5月末日迄に5基完備し使用可能状態とすること。

（尚、本社希望の機数迄に生産を上げるためには治具10基を設備必要（高田社希望）なれども、一先ず昭和19年8月迄の生産を目標として打ち合わせす）

2 南山試製並びに生産機用浮舟製作予定の件

本社希望機数と高田社製作予定とは下表の如く相当開きあるも、結局、昭和18年8月末日迄の分に対しては高田社の計画通りとして、8月以降の分に対しては其の時の状況に応じ再打合せを行う事とし、一先ずこれを目標として材料、治具等手配すること。但し、製品材料は本社案昭和20年3月末日迄の100機分を一時に出庫すること。

注）本覚書より以下のことが読取れる。

①M6A1の呼称は当初「南山」であった。

②M6A1の浮舟生産計画は試作機を含め100機分だが、当然この中には交換用・補用品が含まれている。

③浮舟にも丸管治具が使われている。（丸管治具とは愛知がハインケル社より技術導入した可変治具、別ページの丸管治具を使用し組立中の主翼写真参照）

④ 1号機の初飛行は昭和18年12月のため、0、1、2号機の浮舟は愛知内製であったと推定できる。尚、試作機は0号機が強度試験用、1、2号機が試作1ロット、3～8号機が追加試作の2ロット。

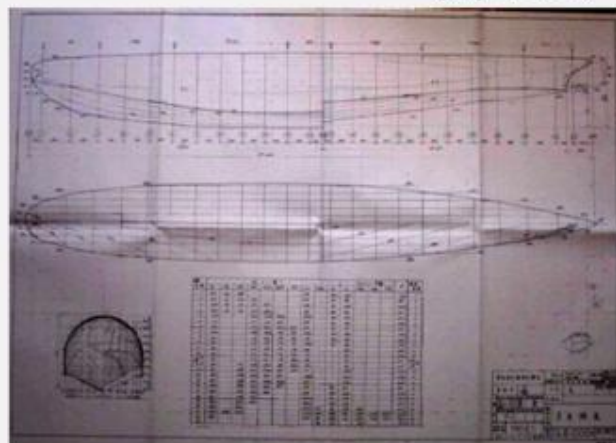
2) 修復

浮舟と脚柱はボブ・ワイロックとデレク・ファッジが担当し修復を開始したが、浮舟の腐蝕の程度は想像を超えていた。外板は無論のこと、内部のキー

ルまで腐蝕しており、修復はキールや底部外板などを交換する難作業となり、エド・マツナーも参加する大工事となった。

○浮舟内部にはガロン缶に半分くらいの砂と少量のアルミ切粉（ドリル加工）が残されていた。

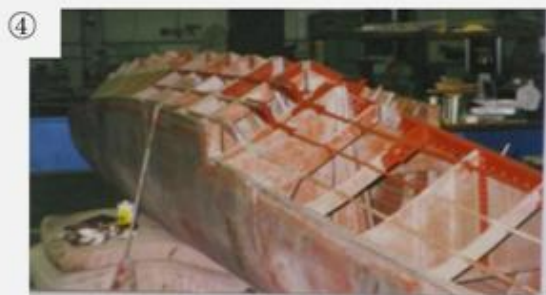
次号へつづく



①1/10 浮舟線図・昭和19年2月11日調整



②、③腐食の進行した外板とキール



④、⑤、⑥ 修復中の浮舟（フロート）部

⑪、⑫装着された浮舟（フロート）、チャイン形状とステップ段差が空中と水上性能を左右する



⑦、⑧、⑨、⑩脚柱（パイロン）と取付金具・大砲の尾栓方式・特殊台形ネジ、90度回転で締結



⑬ 浮舟&脚柱透視図

みなさまからのメッセージ

鈴木守さんから貴重な情報を送っていただきました。ありがとうございました！

「地歴甲子園」優秀賞「地下軍需工場建設と本土決戦準備」

表題の論考は岐阜県立関高等学校地域研究部(顧問 林直樹先生)が発表したものです。多治見・美濃加茂間は本土決戦「最終防衛線(ライン)」と構想され そのラインに沿って建設された「地下工場」は「地下陣地」に転用されるとの仮説を立てています。瀬戸地下工場もこのように解釈しうるか 興味のあるところです。雨宮中尉に引率され水野『感応寺』に展開した110名余の分隊は『一旦緩急あれば』直ちに地下工場を接收し抗戦・死守を任務としたのでは? 瀬戸市 鈴木守

朝日新聞デジタル 池田孝昭 (2023年11月16日 11時00分) より引用

左から杉浦良太朗さん、鈴木遥斗さん、梅村颯太朗さん、酒向達也さん=2023年11月10日午後5時51分、岐阜県関市桜ヶ丘2丁目の関高校、池田孝昭撮影



岐阜県立関高校の地域研究部が「地歴甲子園」と呼ばれる「全国高校生歴史フォーラム」の優秀賞に選ばれた。受賞したリポートは「地下軍需工場建設と本土決戦準備」。太平洋戦争末期に地元で建設された地下工場の実態について、お年寄りへの聞き取りや現地調査などで調べ上げた。

調査をまとめたのは、いずれも3年生の杉浦良太朗さん、鈴木遥斗さん、梅村颯太朗さん、酒向達也さんの4人。地域研究部は3年前から、学校近くにあった旧日本軍の秘匿飛行場「関飛行場」について研究。4人は先輩たちの研究を引き継ぎ、飛行機生産をテーマに調査した。

4人が調べたのは関飛行場に近い川辺町に造られた地下工場。1944(昭和19)年12月に着工し、中国人や朝鮮人の労働者も動員されたが、完成前に終戦を迎えた。

生徒たちは川辺町史など史料を調べるだけでなく、昨年秋から何度も現地を訪れた。地下壕(ごう)は崩落の危険があるため、近づけずドローンを使って内部を撮影。当時を知るお年寄り5人に話を聞き、「後ろ手に縛られて数珠つなぎになった中国人を見かけた」「慰安所だと言われる施設もあった」「終戦後に解放された中国人からコッペパンをもらった」などの証言を得た。

「もし戦争が続けられていたら…」恐れ感じながらまとめたリポート「自然の丘だと思っていた場所が、地下壕を掘った時の残土が盛られたものだと知り、驚いた」と杉浦さん。酒向さんは「戦争は時間的にも空間

編集後記

遠くウクライナやパレスチナの理不尽さもさることながら、国内における「理不尽さ」も半端ではありません。平家物語の中で「奢れるもの久しからず」とあるけれど、この国でも奢れるものは、いつまでも奢っているようにしか思われません。ロシアのような凶悪な国ではないはずなのに、「奢れるもの」を崇め、赦している人々とは一体どのような人達なのだろうか、いつも疑問う毎日です。

2024, 2, 26 (T)

的にも、遠いものだと思っていた。地元には爪痕が残っていて、捕虜などの問題について考えさせられた。4人は、東濃地域に集中する地下工場の場所を地図上に落とし、現在のJR 太多線の周辺に分布していることに気がついた。旧陸軍には本土決戦時に、多治見と美濃加茂を結ぶラインを東海地区の「最終防衛線」とする構想があったことを史料で確認。「地下工場は、本土決戦時に陣地に転用する計画があったのでは」との考察をまとめた。

鈴木さんは「戦争が続けられていたら、この地域もどうなっていたか分からない」。梅村さんも「沖縄での戦いが全国で起きていたかもしれない」。4人は恐れを感じながらリポートをまとめた。

フォーラムは奈良大学と奈良県が主催し、今年度は17回目。全国89編の応募から5編の優秀賞の一つに選ばれた。25日に同大で発表会がある。(池田孝昭・朝日デジタル)